元気 挑戦 感謝

モットー常に胸に 創立35周年迎える伝統チーム

基山ジャガーズ

元気にきびきびと練習する基山ジャガーズ

ジュニアランド

佐賀県基山町の基山小学校を拠点に活動する基山ジャガーズは1979年（昭54）創立の伝統チーム。町内で牛乳店を経営する藤田実監督（44）やコーチ陣指導の下、40人の部員は「元気・挑戦・感謝」をモットーに野球に真剣に取り組んでいる。8月31日からはチーム35周年記念大会も開催。夏にかけて、さらに輝きを増していくことだろう。（沓屋　朗）

高野連の審判員藤田監督的確指導

グラウンドに入って来る部員は、帽子をとって大声を張り上げ一礼する。かなりの早口のため、なかなか聞き取れない。レフトを守る久保山蓮太郎主将に聞くと「モットーの元気！挑戦！感謝！と言っています」と教えてくれた。グラウンド内ではいつもダッシュが原則。きびきびした印象で気持ちがいい。

就任5年目の藤田監督＝写真＝は鳥栖工業高校野球部出身で、高野連の審判員も勤めている。野球をよく知っているだけに、練習も実戦的で理にかなっている。中でも目を引くのは膝つきキャッチボール。最初は両膝を地面について投げる。次に片膝だけで行う。それにより上半身の体重移動が身につくのだ。「きちっとしたフォームで投げられるようになります。野球はキャッチボールが全てですから」と監督。1日、キャッチボールだけをすることもある。

野球をよく知ることも重視している。毎月1回、公民館でミーティングを実施。ルールや走塁法などを教えている。例えば2死二塁2ストライクの場面で守備は走塁はどうするかなど、みんなで考え、話し合う。

監督の愛弟子のような存在が、1番の寺崎拓真捕手だ。監督やコーチが教えたことをしっかりマスター。それをナインにアドバイスする。元気が良く、大声で指示を出す。「寺崎が司令塔になってゲームをつくってくれます」と監督は全幅の信頼を寄せる。

藤田監督の理想は「守りのチーム」だが、絶対的なエースが育っていないため、今年は攻撃中心のチームになった。打撃のチームはツボにはまると強力だが、相手投手が良いともろさが出ることが多い。その長所と欠点が出てしまったのが、全日本学童軟式野球マクドナルドトーナメント・佐賀県大会。初戦の2回戦は12—0、3回戦は4—1と快勝しながら、今月8日の4回戦は1—2で惜敗した。

ただ「元気と挑戦」の気持ちは失っていない。この後の目標は7月のNTT杯だが「NTT杯で優勝し、その他の大会も優勝できるようみんなで頑張ります」と久保山主将は再スタートを誓った。8月31日からは自チームの35周年記念大会も待っている。ジャガっ子たちは未来へ前進して行く。

陸上担当コーチ 体力強化に一助

〇…珍しいのは、陸上担当コーチがいること。鳥栖工高駅伝部出身の大久保和己氏だ。部員の冬場の体力強化のため、先輩の藤田監督が要請して就任してもらった。今年2月3日の第30回基山町小学生駅伝大会ではA・B・Cの3チームが出場し、Aが優勝、Bが2位になった。野球をはじめ、いろいろなスポーツチームから10チームが参加する中「大会6連覇でした」と藤田監督は目を細める。野球にも好結果をもたらすに違いない。

◀◀◀ 両膝をついてキャッチボールをして、正しいフォームを身につける

◇基山ジャガーズ◇

背番号	守備	氏名	学年	身長	体重	投打
⑩	左	久保山蓮太郎	⑥	139	33	右右
1	中投	金森　優輝	⑥	144	35	右右
2	捕投	寺崎　拓真	⑥	152	47	右左
3	一投	牟田　海斗	⑥	145	41	左左
④	三二	河内　嘉嗣	⑥	138	35	右右
5	三捕	楢崎　陸虎	⑥	144	43	右右
⑥	遊	中村　将希	⑥	150	41	右右
8	右投	原田真之介	⑥	147	33	右右
9	外	村山　太基	⑥	152	46	右右
11	投外	本多　伊織	⑥	138	30	左左
13	投二	飛松　駿平	⑥	139	31	右右
14	投外	武田　怜士	⑥	158	38	右右
15	内	原　伊吹	⑥	148	36	右右
16	内内	吉野　壮悟	⑥	140	31	右左
17	外	立石　一	⑥	146	33	右右
7	投外	西原　海音	⑤	144	40	右右
12	投外	西原　千空	⑤	149	40	左左
18	内	河本　一真	⑤	143	37	右左
22	外	木原悠一郎	⑤	136	28	右右
23	内外	藤田　健人	⑤	143	32	右右
19	内外	飛松　翔平	④	135	28	右右
20	内外	福田　惠三	④	132	27	右右
21	内外	浮乗　将来	④	135	25	右右
24	内外	重松　拓海	④	130	27	左左
25	内外	黒川　健太	④	130	24	右右
26	内外	関　萌聖	④	138	36	右右
27	内外	大久保龍心	③	130	30	右右
37	内外	藤田　昌太	③	127	32	左左
38	内外	永田　勇大	③	131	32	右右
39	内外	大坪　厚輝	③	121	23	右右
31	内外	飛松　航平	②	124	27	左左
32	内外	佐藤　光希	②	134	30	右右
33	内外	吉野　雅人	②	121	22	右右
34	内外	安永　拓海	②	123	25	右右
35	内外	藤田　陽斗	②	133	39	左左
36	内外	吉川　慶	②	120	20	右右
40	内外	堤　涼真	①	121	21	右右
41	内外	河内　利嘉	①	120	28	左左
42	内外	西原　寛地	①	120	22	右右
43	内外	久保山柊介	①	118	21	右右

※●は主将、〇は副主将

毎週火曜 新連載「少年少女の夢」

野球が好きです

夢を追いかけよう！

題字はソフトバンク・王会長直筆

野球で頑張っている少年少女たちにソフトバンク王貞治会長は「夢を追いかけよう！」と温かいエールを送る。スポニチ編集局には野球っ子から多くの作文が寄せられた。その一字一句に「夢」に向かって走る子供たちの野球への熱い思いが綴（つづ）られている。その作文を原文のままお伝えする。

ぼくの目標選手

福岡市高宮中学校１年
西原　柊

ぼくの目標とする選手は２人います。１人はダルビッシュ有投手です。なぜかというと、いろいろな球種を持っていて、次々と打者を打ち取っていくすがたがカッコいいし、いつどんな時でもなにひとつ表情を変えない投手がぼくのあこがれでもあります。

そしてもう１人は摂津投手です。なぜかというとバッターを打ちとるときに内角、外角の使い方がうまくて、しかもダルビッシュ投手のようにピンチで表情を変えません。２人を目標にしてピンチになっても表情を変えない投手になりたい。

ぼくはいまキャッチャーの練習をしているけど、いつか甲子園にでて、いいピッチャーになって優勝したい。そしてプロ野球に入りたい。これからも２人の投手をめざします。

夢はプロ野球選手

福岡市早良中学校１年
田中　悠太

ぼくの将来の夢は、みんながあこがれるプロ野球選手になること。そのためには中学校の硬式クラブチームに入って練習をつみ重ねることです。プロ野球選手になって活躍してヒットとホームランをたくさん打ちたい。

野球について

福岡市早良中学校１年
瀬田川　康成

ぼくは将来、プロ野球選手になりたい。きっかけは小学１年の時にソフトボールを始め、野球が面白いと思ったからです。あと、プロの試合を見てカッコいいと思ったからです。今年１月から福岡中央シニアに入部。早くレギュラーをとり、仲間とがんばり、１つでも多く勝利したい。高校でも野球をやりたい。

※作文コーナーは今回で終了です

生涯青春だ

浅尾　法灯

奇跡という表現は好きではない。だが、奇跡が「ある」のか「ない」のかと問われれば、「ある」と答えざるを得ない。

現実に、自然の泉ではこれまで、学友に奇跡としか言いようのない生命の不思議が、数多く起こっているのである。

奇跡を体験した一人、岡村睦子さんが自然の泉に入学したのは、次女の病気がきっかけだった。

当時、次女は高校生だったが、前々から顔に赤い斑点が出て、ひどい倦怠感を訴えていた。そんな折、学校の健康診断で腎臓に異常が見つかり、病院で詳しく検査した結果、膠原病と宣告されたのである。

「二十歳までの命と言われ、悲しみのドン底に沈んでいた私たち親子にとって、一筋の光明となったのは人間勉強でした。

人間勉強支えに生きる 次女膠原病克服良縁

〝白いパン、白いご飯を食べて、赤い血となる事実—不思議ではないか。人間の生きる力は、学問や知識、理論理屈では計れない〟

この智慧のことばを聞いたとき、生きる希望と勇気が湧いてきたのです」。

偽りのない岡村さんの述懐だが、それから二十数年が経った現在、次女は膠原病の進行が止まり、良縁に